

新明解説

ザ・グローバル人事担当者

世界で戦える人材と組織を作る「人」の10要件とは

株式会社グローバル教育 代表取締役社長 渥美 育子

□グローバル化の成否は人事次第

人事担当の皆さんは、「グローバルな仕事もカバーできたらいいのだが、自信がない。英語は苦手だし、今より忙しくなったらお手上げだし……」と、思っているんじゃないでしょうか。でも、次のことを考えてください。

日本企業は国際化に成功しましたが、グローバル化につまずいています。そこでは3つの危機に直面し大きな損害を被っているのです。国際化時代は終わりましたが、グローバル時代はこれからずっと続きます。そして国内市場はグローバル市場の一部ですから、国内でもグローバル化はじわりじわりと進んでいるのです。

あなたの企業の幹部も、一息にグローバル化を進めることができれば、と願っているに違いありません。ただし、現実には日常業務に追われ続けていて、思うに任せない状況が大半でしょう。しかし、です。グローバル化をもっと急速に進める方法があるのです。

それは日本中の企業の人事担当者すべてがグローバルになることです――。

CONTENTS

- 日本企業が直面している3つの危機的状況
- すべての人事担当者はグローバルになれ！
- 1 世界市場把握のコツを体得する**
- 2 自社ビジネスの総体をつかむ**
- 3 全社レベルで世界共通の座標軸導入に尽力する**
- 4 全社レベルで採用戦略・世界社員データベース一元化を推進する**
- 5 経営戦略を理解し、人材育成計画とマッチさせる**
- 6 「競争法」違反による天文学的罰金と収監を防止する**
- 7 グローバル企業組織化のノウハウを知る**
- 8 グローバル人材育成のノウハウとベンダーを知る**
- 9 主要民族のマインドセットを理解し、説得力を身につける**
- 10 短期・中期・長期、世界戦略に必要な準備をする**
- そして第一歩は？



●渥美 育子 あつみ いくこ

社団法人グローバル教育研究所理事長。株式会社グローバル教育代表取締役社長。青山学院大学卒。青山学院大学助教授を経て、ハーバード大学研究員となる。1983年にボストン郊外で米国初の異文化マネジメント研修会社を設立。「タイム」誌で紹介されるなど一躍話題となり、数多くのグローバル企業で人材育成や世界市場戦略策定を担当。2007年に帰国後は、数多くの日本の大企業においてグローバル人材教育を担当する一方、子どものグローバル教育の普及にも尽力している。超党派政策シンクタンク「国家ビジョン研究会」教育分科会副会長。著書に『「世界で戦える人材」の条件』（PHP研究所）。

<http://global-kyoiku.net>